



森林ふれあい情報

平成29年 7月
第 43 号

林野庁中部森林管理局
木曾森林ふれあい推進センター
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp

木曾の国有林見学会(春季)

木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会(春季)」を5月25日(木)に開催しました。

この催しは、江戸時代より繋がり深い木曾地域と愛知県名古屋市の関係や、森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、木曾川下流域の都市住民の方々に、木曾川源流の国有林を訪ねてもらい、木曾地域の林業の歩み、木材輸送方法(伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産)及び、木材が名古屋市熱田白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生地を実際に見聞きしていただく学習講座です。



職員の説明を聞き入る参加者



ふれあいの道での散策風景

当日は、あいにく朝から雨模様でしたが、名古屋市内を中心に44人が参加し、森林鉄道の車窓から見える森林と溪流が織り成す景色を眺め、また、江戸時代から約三百年余の時を刻み、見事に成長した木曾ヒノキや天然サワラがうっそうと生い茂る林内を散策し、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の樹種の見分け方や特徴などを学習しました。

参加者からは「自然を満喫した」「また参加したい」「名古屋とは空気が違う」と言った感想が聞かれました。

この国有林見学会は、木曾復興支援の取組としても位置づけており、今後も実

施にあたり参加者からの意見を企画に反映させ、より意義のある催しとなるよう努めて参ります。

パズルラリー開催中

木曽路の森林に親しみながら森林の大切さを理解を理解してもらうとともに、平成26年9月の御嶽山噴火災害の復興支援を目的とした「パズルラリー」を、「木曽路全域コース」と普及版の「赤沢自然休養林コース」の2コースで平成28年4月29日から平成29年11月12日まで行っています。

「木曽路全域コース」は、木曽街道の浮世絵を地元産ヒノキ間伐材の板にカラー印刷したものを6分割し、木曽地域の6町村内にある散策路12カ所にパズルピースを置き、6町村を巡ると絵が完成します。木曽路散策コース全12カ所を制覇された先着100



赤沢コース第3弾完成品

名様に、はがき大の地元産ヒノキ間伐材の板にカラー印刷した木曽街道の浮世絵をプレゼントしており、長野県内を始め関東方面や中京方面等幅広い地域の皆様にチャレンジしていただいております。

「赤沢自然休養林コース」は、自然休養林内で完了する普及版として、木曽式伐木運材図を6分割したもので、好評により開始から2ヶ月で終了し、第2弾を秋に、また、第3弾を今年度の自然休養林開園時から始めましたが、講評を博し7月をもって終了しました。

また、「赤沢自然休養林コース」の第4弾と、新たに「中山道木曽11宿」を計画しています。

ニホンジカ対策への取組

木曽地方におけるニホンジカの増加が懸念される中、今年度から中央アルプス山麓の国有林等でのライトセンサスによる個体数調査をはじめました。

既に取り組まれている長野県林業総合センターでの実施方法等について、担当者から助言をいただき、月1回の日没後に長野県木曽地域振興局林務課および木曽森林管理署と合同でライトセンサスを行っています。

また、山麓周辺の国有林では餌付けによる誘引捕獲試験も、地元の猟友会と木曽森林管理署と連携して取り組んでいます。現在のところ、捕獲できたといった成果はない状況ですが、引き続き実施することとしています。



ライトセンサスによる調査

城山史跡の森

「城山史跡の森」は、木曾郡木曾町福島の中心街の近くにあり、福島城跡一帯の国有林、県有林、寺社有林を利用した気軽なハイキングコースとして知られています。

遊歩道整備

春の観光シーズン前の4月2日（日）に、城山史跡の森倶楽部の会員や当センターの職員を含めた18名が参加し、3班に分かれて、林道の崩土除去、遊歩道の整備や、あずまや及びトイレの清掃を行ないました。

今年は、2、3月が寒く降雪があったことから、林道や遊歩道に倒木や崩土が多く、その除去や雨水の排水のための溝掘り、笹の刈り払い等に汗を流し無事作業を終了しました。

また、夏にも遊歩道整備が予定されています。



林道崩土除去作業

電気柵の設置



電気柵の設置状況

「城山史跡の森」には、長野県指定希少野生動植物であるササユリ、ヤマシャクヤク等が自生しており、「城山史跡の森倶楽部」等と連携して希少植物の保護活動に取り組んでいます。

5月8日（月）城山史跡の森倶楽部会員の10名の皆さんとともに、ササユリ及びヤマシャクヤク生育地に電気柵の設置作業を行いました。

ササユリ自生地では動物による食害が発生していたことから同倶楽部と連携して昨年より電気柵の設置を始め、今年度は新たにヤマシャクヤク自生地でも設置することにしました。

ヤマシャクヤクの生育地では、急傾斜地等のため足場が悪い中での作業となりましたが、柵の支柱建てやワイヤーの取り付けに加え、保全活動への啓発、事故防止の観点から電気柵の周囲へのグリーンロープも取り付けました。

また、ササユリ生育地では柵に障害物が触れないように雑草等の刈り払いと隣接するあずま屋等の構造物にも配慮しつつ電気柵を設置しました。

今年度の作業は天候に恵まれ、総延長320mの作設を無事に終えることができ、今後も地域の方々と連携した希少植物の保全活動等に努めていきたいと考えています。

城山史跡の森植物観察会

木曾町環境協議会主催の植物観察会が4月29日（土）に行われ、木曾郡内小学生など約30名の参加者が、春の芽吹き始めの森林でいろいろな植物の観察を楽しみました。

この観察会は、毎年、木曾町福島の「城山史跡の森」で行われているもので、当日は天候に恵まれ、植物に詳しい県植物研究会員の講師や同倶楽部の会員の案内で約8キロの行程を植物や史跡の説明に耳を傾けながら散策しました。

今年は、3、4月が気温が低かったことから花の開花が遅れ、ちょうど見ごろの植物が多く、普段町の中では目にすることが少ない植物の特徴や名前を、メモや写真に収め、城山国有林が北限というイワタバコなど希少な植物の観察や、この地の歴史、更に遠くに見える木曾駒ヶ岳に代表される山々の特長を熱心に学びました。



講師の説明を聞く参加者

森林ボランティア作業支援

名古屋市民の森づくり



雨の中での植付作業

愛知県名古屋市での「名古屋城本丸御殿復元事業」の一環として、平成21年から実施されている活動で、木曾川上流域の豊かな自然環境を残そうとする目的で、名古屋市民による「平成の名古屋市民の森づくり」活動が5月13日（土）に木曾郡木曾町の町有林で行われ、今回で9回目となります。

当日はあいにく雨となりましたが、開会式の後、森林組合の職員によりチェーンソーによるカラマツの伐倒の実演があり、伐倒の瞬間の迫力に参加者からは大きな声が上がりました。

その後、名古屋市民120名と関係者合わせて約200名は、雨具を身に付けヒノキのほか、ナナカマドなどの広葉樹合わせて800本の苗木を植えました。

地球緑化センター

NPO法人「地球緑化センター」では、日本各地での森林を守り育てる活動を推進するため、平成8年に木曾郡上松町赤沢自然休養林で市民参加による森づくりとして「山と緑の協力隊」第1回プログラムを行い、その後、「ふれあいの森（名称：『太樹の森・赤沢』）」を設定して以来、毎年森林整備を実施しています。

6月3日（土）、4日（日）に行われた「第204回山と緑の協力隊」では両日10名の参加者のもと、樹齢約20年生の人工林ヒノキの除伐作業等を行い、当センターは木曾森林管理署と連携を図り、器材の貸し出しや、安全および作業指導を行いました。



グループでの除伐作業風景

緑の挑戦者



除伐作業の風景

NPO法人「緑の挑戦者（グリーンチャレンジャー）」は、水の恵みを受けている愛知県名古屋市民等が主体的に水源地である町村等に協力し、水源林の育成と環境保全へ寄与することを目的に、木曾郡内での森林整備活動を行っています。

今年度の1回目は、6月3日（土）に木曾郡木祖村の村有林において参加者約50名による除伐作業が行われ、地元木祖村をはじめ長野県、木曾森林組合、木曾森林管理署と協力して作業指導にあたりました。

中日森友隊

中日森友隊は、市民参加の育林作業を通じて、健全な森林環境づくりの手助けを行い、「緑を育て森に親しむ」市民の輪を広げ次世代に伝えることを目的とし、愛知県設楽町に造成した「中日森友隊の森」を中心に活動している緑のボランティア団体です。

今回、木曾郡王滝村で、昭和59年9月14日に発生した長野県西部地震の災害跡の復旧ヶ所である「国民の森」において、6月10日（土）に除伐作業を実施しました。

当除伐箇所は、平成13年に開催された「第1回未来世紀へつなぐ緑のバトン」イベントにおいて中日森友隊が除伐作業を始め、現在



手慣れた手つきで作業

までボランティアによる作業を継続しています。

ハンノキ、コナラ、カンバとともに植えられたヒノキは胸高直径14～20センチメートル程度に生育し、うっそうとした林の中参加した32名はノコギリで伐採し、玉伐り等の作業に汗を流しました。

途中から降雨のため、作業中止となりましたが、参加者からは「林の中が明るくなり、気分爽快」「機会があればまた来たい」との声が聞かれました。

林業体験指導

上松技術専門学校

長野県上松技術専門学校は、木工加工の技術を習得する単年度修学の職業訓練校です。森林の役割と維持管理の大変さ・大切さや木曾の林業の歴史を学び、木材の有効活用を意識づけることを目的として、毎年林業体験を行っています。



作業風景

5月9日(火)訓練生約40名により、熊による皮剥ぎ被害を防止するため、植栽されたヒノキの幹に熊皮剥き防止テープを巻く作業を実施しました。最初は戸惑いながらの作業でしたが、時間が経つにつれ、なれた手つきで予定より多くの造林木にテープを巻くことができました。

作業終了後は、赤沢自然休養林まで移動し、学術参考林の「千本立」、「奥千本」を見学し木曾ヒノキの歴史等について学びました。当センターも木曾森林管理署職員とそれぞれのグループにおいて作業の指導と散策の案内を行いました。

犬山中学校

愛知県犬山市の犬山中学校は、市の水源の一つである木曾川上流の木曾地域において、木曾の自然や文化を学ぶ木曾総合学習を2日3泊の日程で平成11年から毎年行って、今年で19年目となりました。

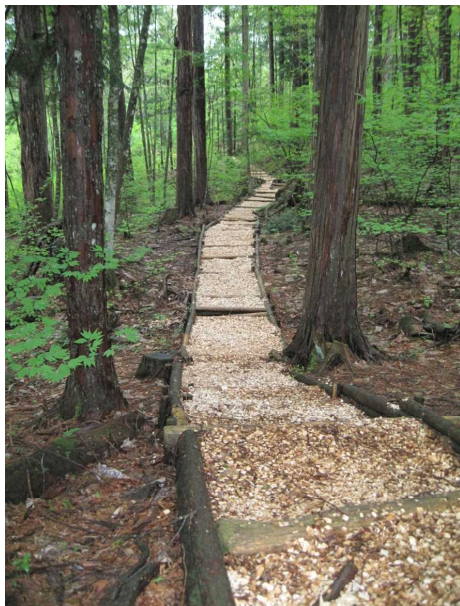
2年生の約230人は、その最初の体験学習として、5月16日(火)に赤沢自然休養林内で、遊歩道へのヒノキチップ敷設作業と森林散策を3つのグループに分かれ行い、そのうちの1つのグループは記念植樹もあわせて行いました。

当センターも木曾森林管理署職員とそれぞれのグループにおいて作業指導と散策の案内を行いました。



みんなで一緒にチップ撒き

木曾青峰高校



作業終了後の遊歩道

木曾郡木曾町にある木曾青峰高校では、毎年体験学習として、赤沢自然休養林内の遊歩道へのチップ敷設作業と森林散策を行っています。

5月26日（金）は、1年生の約150名は8班に分かれ、あいにくの雨降となったことから、学術参考林の「奥千本」への見学は、学術参考路と類似している散策コースの「冷沢コース」に変更になりましたが、雨の降る中で敷設作業の生徒からは「足元が柔らかく歩きやすくなった。」と、汗をかきながらの作業を行いました。

当センターも木曾森林管理署職員とそれぞれのグループにおいて作業指導と散策の案内を行いました。



チップの袋詰めに挑戦